

失せ物探しが入り用だと言われたから、こんなところまで来てみれば……待っていたのが人間一人、とはね。それで？ なにを探して欲しい、と言っただい？ 私に頼むぐらいだ、それなりの獲物なんだろうね？

は？ 失せ物なら、たったい見つけた……？ まさかとは思うが、あなたこそが捜し物でした、なんて三文芝居を繰り広げるつもりじゃないだろうね？ さすがに鋭い、それでこそ私の恋の相手だ、って……。はあ……。まったく、バカにも程度というものがあるだろう？ それともキミは本気で言っているのかな？

……ほう、大真面目、と来たか。

真面目、大いに結構。だけどね、私は生憎そういう輩と付き合っている暇はないんだ。

ともかく失せ物は見つかったようだし、悪いが帰らせてもらうよ。これでいて暇を持て余す身でもないんだ。待て、って……用事なら済んだだろう？ キミの失せ物はこうして見つかりました。はい、めでたしめでたし。それだと依頼は半分しか済んでいない、だって？ 謝礼も用意してある、って……ふむ、チーズ、か。

悪くはない報酬だけど、私への謝礼として用意するには、それはあまりにも安物すぎやしないかな？

口にしてないじゃないか、って……これはまた舐められたものだね？ 匂いでわかるさ。

人が用意したわりには上等な部類かもしれないが、それでも、やはり人は人、だな。舌なめずりの価値もない。

……まいったな。まことに残念ながら聞き違いじゃないらしい。

まったく、私に性感帯を探してくれ、だなんて……。

そこまで低俗な事を本気で発想し、あまつさえ真面目に頼み込むとは……バカだバカだと思っていたけれど、ここまでバカだとはね。

ダメか、だって？ 無論、普段なら耳に入れもしない類の戯れ言だよ。だが……どうやら今日は、そういう戯れに付き合うのも悪くはない、という気分みたいだ。

あははっ、そんなに嬉々とした反応を見せられると悪い気はしないけれど……でも、本当にいいのかな？

なにが、って……ああ、なるほど。キミは私が失せ物をどうやって探すのか、詳しくは知らないのか。

無論、ネズミたちを使って探すこともあるけれど、私自身が探す事だってある。ロッドを使う方法もあるけれど、今回はペンデュラムを使ってみるとうか。

普通、振り子によるダウジングは、揺れ方で判断する。だけど私のペンデュラムにはそれ以外にも力があってね、イエス・ノーで答えられる質問であれば、相手に問うことで、その正否がわかるんだ。

性質上、あまり細かいことは問えないが、そこは回数を重ねれば問題ない。キーキを切り分けるように、問題を切り分けていけばいいだけさ。

物は試し、実演してみよう。さあ、ペンデュラムを持って……そうしたら力を抜いて、見つめてっらん。

たしかに、謝礼にチーズ、というのは悪くない。だけど、朝から待たされていた私のネズミたちは生憎とチーズよりも人肉のほうが好みだね。

その証拠に私のネズミたちは、チーズよりキミを所望しているみたいだよ？ キミを食べたくて、うずうずとさつきから騒いでいる。

ナズーリンに食べられるなら本望だ、って……。

はあ……重ねて言うが、キミは本当にバカだな？

あまりつまらないことを言うようなら、その口から食べてあげようか？

ははっ、キスなら大歓迎、ときたか。まったく、本当にどうしようもない減らず口だね。

なんならその口、本当に減らしてもかまわないんだよ？ 失せ物探しを頼むつもりが、キミ自身がこの世から失せる、というの、滑稽で面白いだろう？

それでも、いい……？

くっ……くっ、あははっ。あつ、いや、すまない。……で笑ってしまっるのは不躰だった。

ただ、あまりにもキミが正直というか、馬鹿正直というか……少し、身近にいる人の事が脳裏に浮かんできて……それで思い出し笑いをね。

ふむ、いいだろう。残り半分の依頼、というのを聞こうか。無論、引き受けるかどうかは別問題だけどね。

……は？ いま、あまりにも馬鹿げた内容が聞こえたんだが……もう一度、言ってもらえるかな？

では、手始めに……キミは、私のことが好きかな？

……ほら、ペンデュラムが淡く輝いて微かに震えているだろう？ これはイエス、ということだよ。もしノーであれば、ペンデュラムは何の反応も返さない。

ふうん……どうやら、先刻の告白は嘘ではないようだね？ これならば、私の依頼人として資格あり、ってことになるかな。ふふっ。

では、質問を変えよう。キミはいま私に触れられて、性的興奮を覚えているかい？

……へえ？ ペンデュラムが反応している、ということとは、キミはいま興奮しているわけだ？

私が軽く触れただけで高揚するだなんて……この調子だと、どれだけの性感帯が眠っているのやら。

いやいや、別に呆れてなどいないよ？ ただ、はたして最後までキミの身体がもつのか、という心配をね。

なぜって……当然、報酬の話さ。依頼を引き受けた以上、キミには相応のギャラを払ってもらわないと。

さっきのチーズじゃダメなのか、って？ ああ、程度では前金がせいぜい。だから不足分は、キミ自身の身体で払ってもらうんだ。異論はないだろう？

もっとも、今さらやめると言われたところで、やめる気はないけれどね。なにしろ、一度受けた依頼だ。

……とはいえ、この話はキミにとっても願ったり叶ったりじゃないのかな？

私に触れられて、私の温度を感じて、これから行われ

るだろう行為を想像し、期待に胸……いや、キミの場合
は股間を膨らませている、といったところだろう？

ふふっ、別に構わないよ？ キミが私で欲情したい、
私で性欲を満たしたいというのであれば、別にそれを制
止しようだなんて無粋な真似はしないさ。思う存分、痴
態の限りを晒しても構わない。

ほら、ペンデュラムもそれを肯定している。私が囁く
たび、光りが強くなって……どうかな？ 他人に心の中
を覗かれる心地は。

キミ自身が自覚していない痴態であろうと、これから
私に探り当てられてしまうわけだ。だって、それがキミ
の依頼であり、望みなんだから……。くすくすっ。

存外、こうして囁かれるだけでも射精してしまうんじ
やないかな？ だってほら、服の上からでも分かるぐら
い、こんなにペニスがヒクヒクしている。

ここまで上を向いて勃起している、ってことは……軽
くなぞっただけでも、裏筋に触れてしまいそうだね？

こうして、指先で衣服越しに、つつつと……ははっ、
切なげにビクビクして……キミのおちんちん、まるで水
脈を探り当てた瞬間のロッドのように敏感だよ。

このまま弄り続けられれば、じきにいやらしい水音が聞こ
えてきそうだけど……そうなる前に、キミはコレを脱が
せてほしいんじゃないかな？

キミは、私の指先を生で感じたいだろう？ 私の指で、
ペニスを、おちんちんを、男性器を、ぎゅっと握られて、

なら、舐めてください……？ ふふっ、キミもだいぶ
利口……いや、素直になってきたじゃないか。

ああ、そのほうがずっと、もっと気持ち良くなれる。
私に身を委ねてくれるなら、今よりもずっと、ね？

よしよし、素直なキミへのサービスとして、このまま
服を脱がさずに扱いてあげよう。突っ込んだ手で、おち
んちんの根本を軽く握ったら、そのまま竿の角度を正面
に傾けて、ゆっくりゆっくり、じわじわと……。

こうして焦らすように搾っていくと、ガチガチに勃起
したペニスの先端……カウパーを垂れ流す亀頭の過敏な
表面と、パンツがじりじりとこすれて……。

ふふっ。キミの腰ときたら、情けないぐらい、びくつ、
びくつと震えて……この程度の刺激でだらしない。

ああ、それとも……私の手で扱かれるだけで、射精し
そうなほど嬉しい、とか？

……へえ、そうか。なら、良いことを教えてあげよう。
私がロッド以外のものをこんなにもしつかりと握ったの
は、今日が初めてなんだ。……これがどういう意味なの
か、わからないキミじゃないだろう？

ふふっ、くすくすっ。ああ、いいよ。今のキミの顔、
吐息……実に素敵だ。舌なめずり、なんて言うけれど、
まさにそんな心地だね。

このままキミを本当に食べてしまいたいぐらい……今
のキミの反応には、ゾクゾクさせてもらった。

じわじわとしごかれたい。そう考えているんだから。

ふふふっ。ほら、ペンデュラムがこんなに輝いて……
キミの本心を教えてくれてる。最初に言っただよ？
私の前で隠し事なんて無駄だ、ってね。

キミは、私に性器を弄られたい。だらしく勃起した、
射精しか取り柄のないちんこを弄られて、真っ白な精子
をびゅくつと吐き出したい、そう思っているんだ。

なら……お願いして……さあ、この耳に、告げるんだ。
私の目を見て……さあ、この耳に、告げるんだ。

愚息に触れて下さい、って。しづいて、こすって、握
って、撫でて下さいって。亀頭を、竿を、カリ首を、根
本を、裏筋を、金玉袋の皺ひとつすら余すことなく、あ
なたの好き放題にもてあそんで欲しいんです、って。

……くすっ。ほら、言えた。そんなに熱心にお願
いされたんじゃ、聞いてあげないわけにはいかないね。
なら、こうして……脱がす前に、直接、隙間から手を
つつこんで……つと、へえ？ これはこれは……。

ガチガチっていうのはこういうことを言うんだらうね。
感覚がいい、なんて言葉じゃ足りないぐらいだよ。

キミのおちんちん、随分と元気がいいんだね。中が蒸
れるぐらい熱くなって、私の手にすり寄ってくる具合な
んで、愛らしさのあまり食べてしまいたいぐらいさ。

ふふっ、微かに指を濡らす感触……これは先走り汁か
な？ まったく、触れてもいないうちからカウパーを垂
らすだなんて、キミは息子のしつけも出来ないのかい？

ほら、そんなキミのおちんちんを、根本からずによつ
と、もつと扱いてあげよう。パンツの裏地がペとペとに
なるぐらいの先走り汁を、亀頭になすりつけるようにし
て……ずにずに、ぐにゅと……。

見えない分、想像は膨らむばかりだろう？ いまキミ
の下半身ではなにが起きているのか、その手がかりは、
キミのちんちんが感じている快楽と、耳に届く水音さ。

ほら……ずちゅずちゅ、ぬちぬちと……手に絡みつ
いたカウパーを塗りたくるように竿を握れば、ひどく卑猥
な音が、パンツの中から漏れ出して……くくっ、まるで
楽器の奏者にでもなった気分だよ。

ちゅぶにゅぶといやらしい音をいっぱいに響かせて……
この硬い楽器は、ずいぶんスケベみたいだね？

楽器というなら、いますぐ吹いてほしい……？
くくっ、ははっ、あははっ。うんうん、実に愉快な申
し出だね。そういうユーモアは嫌いじゃないな。

とはいえ、ユーモアと実技は別だよ。手で軽くしづい
ているだけでも果ててしまいそうなんことを、私に舐め
てほしいだなんて……それはさすがに贅沢ってものさ。

キミには、手コキで充分。その証拠に……ほら、こう
して手に力を込めながら、じりじりと揉むように、先走
り汁ごとちんちんをたくしあげると……亀頭は右に左に
くねくねと揺れて、パンツとこすれあって……びく、び
くびくうって……キミってやつは本当に敏感だね？

わなわなと震える腰にあわせて、亀頭の先、尿道口が。